

# 栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

平成 28 年 9 月(週報第 36 週～第 39 週(9/5～10/2)集計の感染症発生動向調査情報に関する「栃木県結核・感染症サーベイランス委員会」の解析評価結果は次のとおりです。







1 感染症解析情報 {9 月は 4 週間、8 月は 5 週間、前年同期は 5 週間での比較となります。}

## (1) 概況

ア. 9 月の報告数は次のとおりです。全数(1～5 類)把握疾病は **64 件**(8 月は **45 件**)でした。

定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は **1,562 件**(定点あたり **10.18 件/週**)であり、8 月の **2,019 件**(定点あたり **9.89 件/週**)と比較し、週あたり **1.03 倍**とほぼ同様の水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較(週あたり比)	前年同期との比較(週あたり比)
RS ウイルス感染症	<b>307 件</b> (週あたり平均 76.75 件)	 <b>(7.83 倍)</b> 前月は 49 件 (週あたり平均 9.80 件)	 <b>(7.99 倍)</b> * 前年同月は 48 件 (週あたり平均 9.60 件)
感染性胃腸炎	<b>207 件</b> (週あたり平均 51.75 件)	 <b>(1.11 倍)</b> 前月は 234 件 (週あたり平均 46.80 件)	 <b>(0.77 倍)</b> * 前年同月は 338 件 (週あたり平均 67.60 件)
ヘルパンギーナ	<b>280 件</b> (週あたり平均 70.00 件)	 <b>(0.41 倍)</b> 前月は 856 件 (週あたり平均 171.20 件)	 <b>(5.00 倍)</b> * 前年同月は 70 件 (週あたり平均 14.00 件)

RS ウイルス感染症は、前月に比べ報告数が 7.83 倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期と比べると、報告数で 7.99 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、やや高い水準で推移しています。

感染性胃腸炎は、前月に比べ報告数が 1.11 倍とやや高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.77 倍とやや低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、やや高い水準で推移しています。

ヘルパンギーナは、前月に比べ報告数が 0.41 倍と大幅に低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 5.00 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

## (2) 全数(1～5 類)把握疾病情報(全国)

ア. 1 類、2 類及び 3 類疾病

結核 1,643 件(8 月 2,349 件)、コレラ 4 件(8 月 1 件)、細菌性赤痢 7 件(8 月 16 件)、腸管出血性大腸菌感染症 525 件(8 月 1,056 件)、腸チフス 10 件(8 月 2 件)、パラチフス 2 件(8 月 3 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4 類・5 類(上位 6 疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	353	469
2	レジオネラ症	171	160
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	126	178
4	後天性免疫不全症候群	101	137
5	侵襲性肺炎球菌感染症	95	141
6	アメーバ赤痢	81	115

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 64 件)

結核 40 件、コレラ 1 件、腸管出血性大腸菌感染症 5 件、デング熱 1 件、レジオネラ症 5 件、急性脳炎 1 件、後天性免疫不全症候群 1 件、侵襲性肺炎球菌感染症 2 件、水痘(入院例) 1 件、梅毒 6 件、破傷風 1 件

## 2 疾病の予防解説

RS ウイルス感染症の解説です。

RS ウイルス感染症は、感染症法に基づく 5 類感染症定点把握疾患です。RS ウイルス感染症は、例年、11～1 月に患者数が増加する傾向があります。今年は例年より早い第 35 週（8/29～9/4）から報告数の増加が見られ、9 月の報告数は過去 10 年間で最多となりましたので、今後の発生動向に注意するとともに感染予防を心がけましょう。

疾病名	RS ウイルス感染症
疾病の特徴や症状	<p>RS ウイルスによって引き起こされる急性の呼吸器感染症です。</p> <p>咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛まつ感染や、ウイルスがついている手指や物品を触ったり、なめたりすることによる接触感染で感染します。潜伏期は 2～8 日とされ、発熱、鼻汁などの上気道炎症症状が数日続き、場合によっては、細気管支炎、肺炎などの下気道炎症症状へと進展していきます。</p> <p>生後 1 歳までに半数以上が、2 歳までにほぼ 100% の児が 1 度は感染するとされていますが、年齢を問わず再感染します。年長児や成人の再感染では通常感冒様症状のみですが、初感染乳幼児の約 3 割では咳が悪化し、喘鳴、呼吸困難症状などが出現します。特に乳児期早期に初感染した場合は、細気管支炎、肺炎を引き起こすことがあり、低出生体重児等で重症化のリスクが高まります。重篤な合併症として、突然死に繋がる無呼吸発作、急性脳症等があります。また、高齢者でもしばしば重症の下気道炎を起こすことが知られています。</p> <p>治療は、特効薬がありませんので、主に症状に応じた対症療法になります。</p>
疾病の予防対策など	<p>予防接種のワクチンはありません。</p> <p>接触感染対策として、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石けんによる手洗い又はアルコール製剤による手指衛生を励行します。</p> <p>症状が出てきたら咳エチケットやマスクを着用し、早めに医療機関で診察を受けましょう。</p>

(参考) 国立感染症研究所 RS ウイルス感染症とは <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/317-rs-intro.html>  
厚生労働省 RS ウイルス感染症 Q&A [http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html)

予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

## 3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、9 月に県内で発生した警報および注意報は次のとおりです。

	第 36 週 (9/5～9/11)	第 37 週 (9/12～9/18)	第 38 週 (9/19～9/25)	第 39 週 (9/26～10/2)
ヘルパンギーナ	【警報】 県北	【警報】 県北	【警報】 県北	

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位 1 % 以内）に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。

本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。